

IPSに集まりませんか？



大学院
情報生産システム研究科長

荒川 雅生

早稲田大学大学院情報生産システム研究科(略称：IPS)は、2003年にひびきのにあります北九州学術研究都市に設立されました。早稲田大学の校歌の一節に「集り散じて人は変れど仰ぐは同じき理想の光」とありますように、現在IPSには国内外(22の国や地域を含む)から優秀な学生が集まっており、また卒業生は、国内の主要メーカーはもちろん、海外でのアカデミアとしての活躍も多く、国際色豊かな環境が整っていることを物語っております(94%が留学生)。

IPSは、情報通信技術全般をカバーする情報アーキテクチャ分野、生産活動に不可欠な領域をカバーする生産システム分野、応用集積システムおよび関連基礎技術を幅広くカバーする集積システム分野の3つの分野で構成されており、早稲田大学の教旨でもある学問の独立の精神のもと、世界へ貢献できる研究に励んでおります。

また、新しい半導体アイランドとして九州で集約が進む半導体産業の人材育成のために、(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)の呼びかけの下、学研都市内の大学と協力し、半導体についても学べる「カーロバAI連携大学院」にも参加し、地域の発展に努めております。

さらに、近年重要視されているリカレント・リスキリング教育として、併設の情報生産システム研究センター(IPSRC)が運営するコンソーシアムにおいてDX人材育成プログラム「AsianDX」を開講しております。このコンソーシアムは地域の方々と大学を結ぶための井戸端会議の場所であると考えております。お気軽にご参加いただき、皆様と共に発展していけるよう努力してまいります。

IPSの教育理念は
こちらから確認いただけます



早稲田大学 三大教旨

1. 学問の独立 - 世界へ貢献する礎 -
2. 学問の活用 - 世界へ貢献する道 -
3. 模範国民の造就 - 世界へ貢献する人 -

入試情報

IPSの課程・学位

専攻・課程	入学定員	収容定員	入学時期	学 位
情報生産システム工学専攻 修士課程	200	400	4月・9月	修士(工学)
情報生産システム工学専攻 博士後期課程	20	60	4月・9月	博士(工学)

○募集分野／情報アーキテクチャ分野、生産システム分野、集積システム分野
○募集人数／(4月、9月入学の合計) 修士課程／200名、博士後期課程／20名



国内出願 [修士課程・博士後期課程]

[2026年4月入学]

	出願期間 (最終日消印有効)	試験日 (いずれか1日)	合格者発表	第1次入学手続期間 (最終日必着)
7月実施入試	2025年6月2日(月) ～ 6月20日(金)	2025年7月11日(金) 2025年7月12日(土)	2025年7月18日(金)	2025年10月1日(水) ～ 10月15日(水)
11月実施入試	2025年9月29日(月) ～ 10月10日(金)	2025年11月14日(金) 2025年11月15日(土)	2025年11月28日(金)	2025年11月28日(金) ～ 12月12日(金)

[2026年9月入学]

	出願期間 (最終日消印有効)	試験日 (いずれか1日)	合格者発表	第1次入学手続期間 (最終日必着)
11月実施入試	2025年9月29日(月) ～ 10月10日(金)	2025年11月14日(金) 2025年11月15日(土)	2025年11月28日(金)	2026年4月1日(水) ～ 4月15日(水)
7月実施入試	2026年5月25日(月) ～ 6月5日(金)	2026年7月10日(金) 2026年7月11日(土)	2026年7月24日(金)	2026年7月24日(金) ～ 7月31日(金)

国外出願 [修士課程、博士後期課程、Gコース (海外協定校による推薦のみ)]

[2026年4月入学]

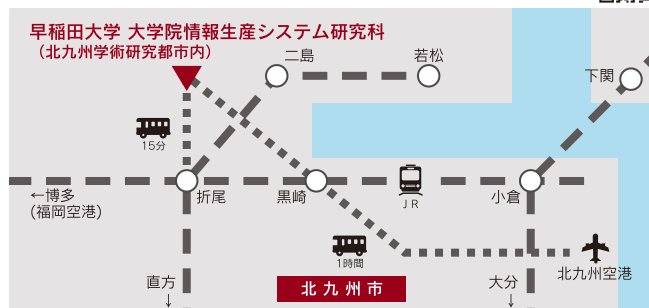
	出願期間 (最終日必着)	合格者発表	第1次入学手続期間 (最終日必着)
7月実施入試	2025年6月2日(月) ～ 6月20日(金)	2025年7月18日(金)	2025年10月1日(水) ～ 10月15日(水)
11月実施入試	2025年9月29日(月) ～ 10月10日(金)	2025年11月28日(金)	2025年11月28日(金) ～ 12月12日(金)

[2026年9月入学]

	出願期間 (最終日必着)	合格者発表	第1次入学手続期間 (最終日必着)
2月実施入試	2025年12月8日(月) ～ 12月19日(金)	2026年2月20日(金)	2026年4月1日(水) ～ 4月15日(水)
6月実施入試	2026年4月13日(月) ～ 4月24日(金)	2026年6月5日(金)	2026年6月8日(月) ～ 6月19日(金)

入学検定料：国内出願 ￥35,000、国外出願 ￥15,000

アクセス



早稲田大学 大学院情報生産システム研究科

〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-7

早稲田大学大学院情報生産システム研究科事務所 アドミッションズオフィス

TEL.093-692-5017 FAX.093-692-5021

☞ <https://www.waseda.jp/fsci/gips/>



お問合せフォーム



IPS Webサイト

2025年度版



早稲田大学 大学院情報生産システム研究科

Graduate School of Information, Production and Systems,
Waseda University



国際的な研究環境



留学生が90%以上を占める、国際性豊かな研究環境。

IPSにはアジアを中心に世界各国から異なる言語、文化、社会的背景をもつ学生が集まっています。様々な外国語が飛び交うクロスカルチャー環境の中で、国際人としてのコミュニケーション能力を身につけることができます。

異なる文化や価値観を持つ学生と切磋琢磨できるグローバルな教育環境

IPSは国際的な教育環境を提供しています。日本にいながら海外留学を体験することができ、自然に英語に馴染むことができます。留学生の多い研究室のゼミ等では、英語文献の輪読や英語による活発な議論などが行われています。また、世界に通用する研究者やエンジニアを養成するため、多くの学生が国際会議で英語で発表する機会を持つよう、強力に推奨しています。

アジアを中心に海外トップクラスの大学と提携・交流。

IPSは、中国、韓国、タイ、マレーシアなどアジアを中心に数多くの海外の有力大学と提携や交流を進めています。



■確かな就職実績

【電機・情報・通信・半導体】NTT、日本マイクロソフト、日立製作所、三菱電機、キヤノン、ソニー、日本IBM、楽天、パナソニック、東芝、NEC、富士通、シャープ、ソフトバンク、ローム、アドバンテスト、ルネサスエレクトロニクス、東京精密、村田製作所、富士電機、リコー、セイコーエプソン、コニカミノルタ、京セラ、オムロン、横河電機、アクセンチュア、ブラザー工業、ゼンリン、フォスター電機、富士ゼロックス、Samsung Electronics、LG Electronics、Huawei Technologies、Alibaba Group 【自動車】トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、マツダ、デンソー、三菱自動車工業、ダイハツ工業、ヤマハ、アイシン精機、ジェイテクト 【エネルギー・プラント・機械・金属】日本製鉄、三菱重工業、神戸製鋼所、九州電力、東北電力、中国電力、ファナック、日揮、小松製作所、旭興産、出光興産、YKK AP、シュルンベルジェ、JXホールディングス、日立造船 【化学・食品】住友化学、三井化学、富士フイルム、東レ、大日本印刷、アサヒビール、日清食品ホールディングス 【鉄道・航空】JR各社、全日空、西日本鉄道 【官公庁・金融・その他】国土交通省、北九州市役所、フランス国立科学研究センター、野村総合研究所、大和総研、長崎放送、仙台放送、西日本新聞社、三井住友銀行、ゆうちょ銀行、オリックス銀行、香港上海銀行、野村証券、清水建設、セコム



IPSの研究3分野



IPSは「情報アーキテクチャ」「生産システム」「集積システム」の3つの分野から構成されており、各分野の枠を越えて相互につながり合う研究領域をハード・ソフト両面にわたって広く学ぶことができます。また、最先端の技術と経営の知識を取り入れた講義を用意し、大局観を持ちテクノロジにも明るい専門家を養成します。社会人学生も広く受け入れています。

メディアから経営工学まで、新たな情報活用をデザインする。

情報アーキテクチャ分野



情報センシングから伝送・分析・意思決定までの
情報通信技術全般をカバー

情報・AI技術の理論・応用教育と、産学連携を重視した
研究を軸とした高度技術人材を育成

さまざまなバックグラウンドをもつ学生に配慮し、
幅広いキャリア形成を支援

研究領域

- 情報・通信モデル ●計算知能 ●言語・メディア情報
- 社会／経営情報 ●ロボティクス・メカトロニクス
- 光ファイバシステム

次世代のものづくり技術を通して新しい価値を創造する。

生産システム分野



開発から材料、組立・製造、計測、制御、診断、物流、
経営までの生産活動に不可欠な領域をカバー

製造業のグローバル化に対応し、
アジアや世界で活躍できる研究者・高度技術者を養成

現場に即した実践的な環境で、
ソフト・ハード両面からの充実した教育・研究を実施

研究領域

- 機械設計・ロボット ●センサ・先進材料・応用計測
- システム制御・プロセス制御・エネルギー
- 生体計測制御システム ●プロセス運用監視・設備保全管理

革新的な集積システムとそのための最先端のテクノロジーの創造。

集積システム分野



応用集積システムおよび関連基礎技術を
幅広くカバー

産業界との密な連携を有する教授陣による
実践的な研究と教育の提供

先端企業からアカデミック領域まで幅広い
分野でグローバルに活躍する人材を育成

研究領域

- 高速/低電力半導体 ●アナログ・高周波回路
- 音響・画像処理 ●光集積・テラヘルツ集積回路
- MEMSセンサー ●システム最適化・検証

学費等 (2026年度入学)



修士課程

(単位：円)

年 度	納入期	入学金	学費・諸会費			合 計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	300,000	581,000	25,000	1,500	907,500
	第2期	—	581,000	25,000	1,500	607,500
	計	300,000	1,162,000	50,000	3,000	1,515,000
第2学年	第1期	—	731,000	25,000	1,500	757,500
	第2期	—	731,000	25,000	1,500	757,500
	計	—	1,462,000	50,000	3,000	1,515,000

博士後期課程

(単位：円)

年 度	納入期	入学金	学費・諸会費			合 計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	200,000	353,500	25,000	1,500	580,000
	第2期	—	353,500	25,000	1,500	380,000
	計	200,000	707,000	50,000	3,000	960,000
第2学年	第1期	—	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	—	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	—	907,000	50,000	3,000	960,000
第3学年	第1期	—	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	—	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	—	907,000	50,000	3,000	960,000

奨学金制度



2024年度 奨学金受給実績一覧(日本人対象)

※「—」：募集対象外 (※：日本円)

		支 給 額		受給期間	受給者数		
		利子	修 士 博 士		修 士 博 士		
●日本学生支援機構							
日本学生支援機構大学院第一種奨学金	貸与	無	¥50,000～¥122,000/月	1～3年	9	0	
日本学生支援機構第二種奨学金	貸与	有	¥50,000～¥150,000/月	1～3年	4	0	
日本学生支援機構入学時特別増額貸与奨学金	貸与	有	¥100,000～¥500,000/一時金	入学時一時金	2	0	
●学内奨学金							
小野梓記念奨学金	給付		¥400,000/年	—	1年	5	—
大川功奨学金	給付		¥250,000/年	—	1年	1	—
校友会給付奨学金	給付		¥400,000/年	—	1年	1	—
●学外奨学金							
浦上奨学金	貸与		¥40,000/月	—	正規修業年限	1	—
三井金型振興財団奨学金	給付		¥80,000/月	—	正規修業年限	0	—

(2024年12月現在)

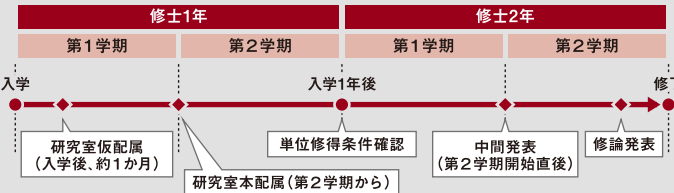
大学院博士後期課程研究者養成奨学金制度

早稲田大学は、2009年度入学者より、大学院博士後期課程において高度の研究能力と豊かな学識を有する優秀な研究者を養成することを目的とした奨学金制度を設立しています。この奨学金は、授業料を免除されている学生を除く博士後期課程の標準修業年限内の在学中で、本奨学金の出願資格をすべて満たし、所定の出願書類を提出した者のうち適格者全員が年額50万円(単年度給付)を受給できる制度です。

カリキュラム (2026年度予定)



自身の専門のみならず、分野の枠組みを越えた知識と技術を幅広く習得することができます。同時に、理工系とは異なるバックグラウンドを持つ学生にとっても、研究活動へスムーズに移行できるよう配慮されたカリキュラムを実現しています。



修士課程入学から修了まで

修士課程の修了要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、授業科目について所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格することです。入学後の半年間は研究室に仮配属とします。その後修了するまでの1年半の間は、研究室に本配属の上で修士論文を作成します。研究室配属は、希望する研究室の指導教員と面談の上、仮配属を経て本配属に進みます。なお仮配属後に、研究室を変更して本配属に進むことは可能です。

科目修得条件および修了要件

科 目 区 分	入学1年後	修了要件
基礎講義科目	18単位以上	20単位以上 (基礎講義科目は4単位まで)
専門講義科目		
実験科目	4単位以上	2単位以上
特論(必修)		8単位以上
演習(必修)		30単位以上
合計	22単位以上	合格判定
修士論文(必修・単位なし)		

※基礎講義科目は、4単位を超えて履修しても修了必要単位数として認められません。

※各判定時までに必要な単位数です。(判定時に新たに必要となる単位数ではありません。)

明石 満帆 AKASHI, Maho



早稲田大学基幹理工学部卒

2024年4月修士課程入学(吉江研究室)

早稲田大学大学院情報生産システム研究科(IPS)には、幅広い分野の研究室が揃っており、自分の学びたいことをとことん学べる環境が整っています。異なる国籍や年齢、価値観を持つ人々が集うこの場では、日々新たな刺激を受けながら、自分の成長を実感することができます。コミュニティ・コンピューティング研究室では、VLM(視覚言語モデル)、AR(拡張現実)、ロボットなど多岐にわたるテーマで研究が行われています。自分の興味に応じて研究テーマを自由に選択でき、先輩や指導教員からの手厚いサポートのもと、充実した研究活動に取り組むことができます。また、定期的開催されるミーティングでは、研究室のメンバーや教員と活発な議論が交わされ、新たな発想や人脈を得る貴重な機会となります。さらに、学会や国際会議への参加も奨励されており、最新の研究動向を学ぶとともに、世界中の研究者との交流を通じてグローバルな視野を広げることができます。

